

編集後記

■編集委員

委員長

藤田 郁代

副委員長

立石 雅子

阿部 晶子

内坂 信也

石坂 郁代

稲本 陽子

勝木 準

菅野 倫子

倉内 紀子

倉智 雅子

佐藤 睦子

椎名 英貴

中村 光一

長谷川 賢

原田 由紀

原田 浩美

春原 則子

平島 ユイ

深浦 順一

福岡 達之

藤原 加奈江

水田 秀子

矢守 麻奈

■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝木 準

2024年1月1日の16時10分頃、能登半島を震源とする強い地震が発生し、同地域に甚大な被害をもたらしました。犠牲になられた方のご冥福をお祈りするとともに、被害を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。

日本言語聴覚士協会はJRATに参加し、リハビリサポートチームの一員として現地等で支援活動を行っています。被災地は高齢化が進んだ限界地域が多く、今回の震災を通してこのような地域では負傷等に対する救急医療だけでなく、高齢者の慢性期疾患への対応や心身能力の維持、障害がある方への支援がいかに重要であるかを改めて認識しました。地震関連死や二次障害を防ぐためにもリハビリ専門職の役割は大きく、さまざまな方面での活躍が期待されます。

編集委員会は、これまで本誌への投稿状況等を報告してきました。2020年までに掲載された投稿論文の状況は本誌の第18巻2号で報告しましたので、今回は2021年度(2021.6.1～2022.5.31)と2022年度(2022.6.1～2023.5.31)の状況をお知らせします。新規投稿論文数は2021年度が38編(総説1, 原著13, 症例報告11, 短報1, 調査報告9, レポート「現場最前線」3), 2022年度が37編(総説1, 原著16, 短報4, 症例報告11, 調査報告4, レポート「現場最前線」1)でした。掲載論文数は誌上で確認していただけますが、査読が年度をまたぐことがありますので詳細は次の機会にお知らせします。

さて今号には、総説(教育講演他)3編、原著2編、調査報告1編、レポート「現場最前線」1編が掲載されています。原著はCIUによる失語症談話検査の開発および言語聴覚業務のマネジメントに関する論文で、調査報告では失語症者向け意思疎通支援事業の活動が報告されています。総説は第24回日本言語聴覚学会における聴覚障害と地域づくりに関する教育講演および吃音幼児の実行機能に関する文献レビューです。文献レビューには、システムティックレビュー、ナラティブレビュー、スコピングレビューなどがあります。システムティックレビューは、明確なクリニカルクエッションに対し網羅的に文献を収集し、系統的で透明性が高い方法で研究を評価し結果を統合します。スコピングレビューも系統的に文献を整理し、まだ研究されていない範囲(ギャップ)を特定します。ナラティブレビューは文献の批判的論考であり、単なるまとめではありません。文献レビューを試みることをお考えの場合は、これらのレビューの方法を確認しておかれることをお勧めします。(藤田郁代)

言語聴覚研究 (第21巻 第1号) 2024年3月15日発行 [年4回(3, 6, 9, 12月)15日発行]

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

1部定価: 2,200円(本体2,000円+税10%)

2024年年間購読料: 8,250円(4冊, 税込, 送料販売会社負担)

編集・発行: 一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長: 深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9階

(☎ 03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <https://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis

Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2024, Printed in Japan

制作・販売: (株) 医学書院(代表: 金原 俊) <https://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

販売・PR部 ☎ 03-3817-5650 FAX 03-3815-7804

印刷所 (株) 真興社

広告取扱 (株) 文京メディカル ☎ 03-3817-8036 FAX 03-3817-8044